

- \* 「自由」とは、何かにとらわれないこと。自分の思う通りに行動できること。  
 クリスマンは「自由人」。霊魂において重荷がない人である。  
 「キリストは、自由を得させるために、私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。」（ガラテヤ5：1）私たちが救われると「自由」になる。何の奴隷から解放されるのか。
- \* 罪からの解放、自由。アダムとアバが罪を犯したときから、すべての人間は神中心ではなく自己中心に生きるようになってしまった。罪に束縛される「罪の奴隷」である。私たちは残念ながら、生まれてきたそのままでは「肉の行い」「罪の行い」から自由になれないのである。
- \* 律法からの自由。ユダヤ主義クリスマンは「律法の奴隷」になっていて、律法を守らなければ救いはないと言って、異邦人であるガラテヤのクリスマンにも律法を強要していた。しかし、キリストを信じることで以外に救いに必要なことは何もない。クリスマンになれば旧約の律法から解放され、自由になっているのだ。「割礼を受けるすべての人に、私は再びあかしします。その人は律法の全体を行う義務があります。律法によって義と認められようとしているあなたがたは、キリストから離れ、恵みから落ちてしまったのです。」（ガラテヤ5：3～4）割礼を受けて救われようとする人は、割礼だけでなくすべての律法を守らなければ救われない。あなたがたはできますか？と問う。彼らは大変大きな重荷を負って生きている。「律法の奴隷」になっているのである。  
 それだけでなく、彼らはせつかくキリストによって大きな恵みを得たはずなのに、「キリストから離れ、恵みから落ちてしまった」という。
- \* 私たちクリスマンは「罪からの自由」と「律法からの自由」をイエス・キリストを信じる信仰によって既にいただいている。「自由」は神から与えられた恵みなのである。「私たちは、信仰により、御霊によって、義をいただく望みを熱心に抱いているのです。キリスト・イエスにあっては、割礼を受ける受けないは大事なことでなく、愛によって働く信仰だけが大事なのです。」（5：5～6）私たちが良い行いをするために造られたが、信仰によって得た御霊の神が私の中に住んでくださって、私を良い行いに導かれるのである。「～しなければならない」とか「～してはならない」という義務感や命令からではなく、喜んで何かしたい、奉仕したいという、「自由」から出る行いが「良い行い」である。